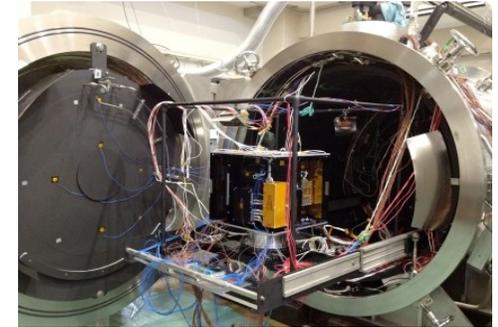
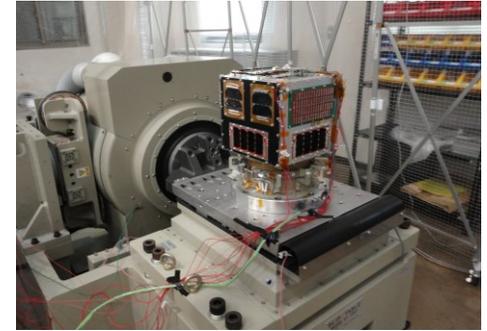


九工大試験設備オペレーショントレーニング

- 九州工業大学超小型衛星試験センターの運営費
- 2014年3月末まで
 - ほどよしプロジェクトからの資金+ユーザ負担金
 - 大学衛星のユーザ負担額は非常に低く設定
 - 振動試験を実施した場合(1日)
 - 設備使用料(2000円)+オペレータ料(10,000円)=12,000円/日
 - 2013年度は24件の大学衛星の試験を実施。
- 2014年4月から
 - ユーザ負担金のみで運営。
 - 振動試験を実施した場合(1日)
 - 設備使用料(15,000円)+オペレータ料(30,000円)=45,000円/日
- 各大学の負担を抑えるため、認定オペレータ制度を導入
 - 大学チームに認定オペレータがいる場合は、オペレータ費用を30,000円/日から10,000円/日に低減
 - 振動試験を実施した場合(1日)
 - 設備使用料(15,000円)+オペレータ料(10,000円)=25,000円/日

九工大試験設備オペレーショントレーニング

- 認定オペレータとなるためのトレーニングを行います。
- 場所：九州工業大学超小型衛星試験センター
- 日時： 9月22日～23日：振動・衝撃試験
9月24日～26日：熱真空試験
- 参加資格 UNISEC参加大学・高専の学生
- 定員 振動・衝撃試験：5グループ、熱真空試験5グループ
(1研究室・加盟団体で1グループとする)
- トレーニング費用
 - 振動・衝撃試験 50,000円
 - 熱真空試験 75,000円
- 延べで、振動・衝撃を3日以上、熱真空を4日以上やるなら、認定オペレータになった方がお得です。
- 申込み方法 UNISEC事務局で受付。UNISECのWebページから申し込み
- **申し込み締め切り 8月8日(金)**
- 締め切り迄に各3グループ以上の申し込みがない場合は、実施しません



超小型衛星民生部品調査について

- 民生部品・技術を活用した宇宙機器の競争力向上に関する研究会（経済産業省）
- 座長：中須賀先生
- メンバー：大学関係者、JAXA、JSS、超小型衛星メーカー、大型衛星メーカー、コンポメーカー、その他関係団体
- 目的
 - 日本の宇宙産業が民生部品・技術をより効果的に活用して競争力強化を実現していくためにはどのような取組が必要かについて、検討を行う。
 - 検討にあたっては、その参考とするため、超小型衛星製造者(主として大学衛星)による民生部品・技術の活用の現状や課題等について調査を実施し、それを踏まえて実態に即した施策のあり方について検討することとする。
- 調査活動
 - これまでに打ち上げられた日本の超小型衛星40基のうち、運用を終えた衛星、メインミッションを既に終えた衛星に対して、民生部品の使用実態や民生部品活用の課題に関して聞き取り調査を行う。
 - 聞き取り調査結果に基づき、それら超小型衛星にて使用された電子部品、材料、機構部品、購入コンポ等についてのデータベースを作成する
- 調査主体
 - 九州工業大学

超小型衛星民生部品調査について

- 超小型衛星向け民生部品データベース
 - 最終的には以下の情報を網羅する予定
 - 素子名、メーカー名とメーカー型番、スペック、購入先、単価、Duty比、Deratingの有無、衛星軌道高度、衛星軌道傾斜角、打ち上げ年、運用年数、放射線試験で動作確認された最大Dose、熱試験温度範囲、軌道上動作中温度範囲、軌道上非動作中温度範囲、軌道上シングルイベントの有無、スクリーニングの有無、冗長系の有無、実装主体、軌道上動作の評価、等々
- 国内の超小型衛星コミュニティに公開を想定
 - 超小型衛星開発における部品選定を助ける
 - コミュニティからのフィードバックによって情報をどんどん更新していき、安く・早く、より信頼性のある衛星作りを可能にする
 - リスクのとれる大学衛星で民生部品の軌道上実証が進む
 - 軌道上使用実績が蓄積されていけば、それら民生部品が中大型衛星にも採用される。
 - 国産の優れた民生部品技術を有した競争力のある宇宙用機器が実現
- データベースを充実・更新していくことで、大学の超小型衛星が、日本の宇宙産業の発展に貢献します。
- 調査への皆様のご協力をお願いします。